

関市の環境トピックス-1

～子どもの視線でごみ問題を調査 《エコポリス》出動！！～

関市内の小中学校の児童生徒を対象に、環境について考えてもらうため、自分の家庭のエコを『捜査』する『エコポリス』事業を実施することとしました。

令和6年度は、家庭のごみをテーマに、夏休み期間、冬休み期間の2回『エコポリス手帳』を配布しました。

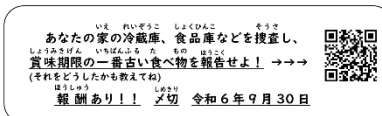
夏の『捜査』では、廃棄物の減量に有効なリデュース(ごみになるものをかわない、ごみを作らない)・リユース(くりかえし使えるものはつかう)・リサイクル(ごみになってしまったものを材料につくる)の3Rの取組みや食品ロスについて家庭での取組みを『捜査』していただいて『家の冷蔵庫、食品庫などにある、一番賞



みんなのうちはエコできてるかな？

- ・食品ロスにならないよう、冷蔵庫やお菓子入れなどはいつも整理している (はい・いいえ)
- ・すぐ使うものは、賞味期限の近いものを買っている (はい・いいえ)
- ・ごみが多い出ない、包装がすぐくれないものや、詰め替え製品を買っている (はい・いいえ)
- ・安くても、いらぬものは買わないようにしている (はい・いいえ)
- ・友達同士で交換したり、フリーマーケットを上手に使う (はい・いいえ)
- ・長く使える、壊れにくいものを選び、修理して使うようにしている (はい・いいえ)
- ・生ごみ処理機やコンポストで生ごみは減らしている (はい・いいえ)
- ・水切りネットなどで生ごみの水分を減らして捨ている (はい・いいえ)
- ・紙は小さなものも資源回収や資源ボックスに出している (はい・いいえ)
- ・ペットボトルや食品トレイはリサイクルしている (はい・いいえ)

あなたのおうちはいくつ『はい』がついたかな？



味期限が古い食品』を報告していただきました。(小学4年生、中学2年生対象)

冬の『捜査』では、実際の関市の制度でのごみの分別・リサイクルについて、家庭での取組みを『捜査』していただいて『ごみ袋をいくつ使っているか、何を出しているか』を報告していただきました。

(小学4～6年生、中学1・2年生対象)

たくさんの『捜査報告』があり、夏の捜査では賞味期限切れの最長は28年前(飲料水)や、賞味期限切れは調味料、缶詰、お菓子の報告が多かった、冬の捜査ではごみ捨て1回で使用するのは大(45L)のごみ袋1袋が多い、出されるものは紙類・生ごみが多いなど、児童生徒の皆さんに家庭内の食品ロス削減、ごみの削減につながる『捜査』をしていただけました。

今後も子どもの視線から各家庭での環境意識の啓発を進める事業を行っていきたいと考えています。

関市の環境トピックス-2

～環境フェアせき2024を開催～

かんきょうフェアせき2024

2024 10・19 Sat やってみよう! UPサイクル
am10:00 - pm3:00
わかさ・プラザ



令和6年10月19日(土)、「環境フェアせき2024」をわかさ・プラザにて開催しました。環境保全活動を行っている市民団体や企業、学校など41団体が出展し、各団体のブースでは活動紹介や体験、販売などで来場者との交流を深めました。

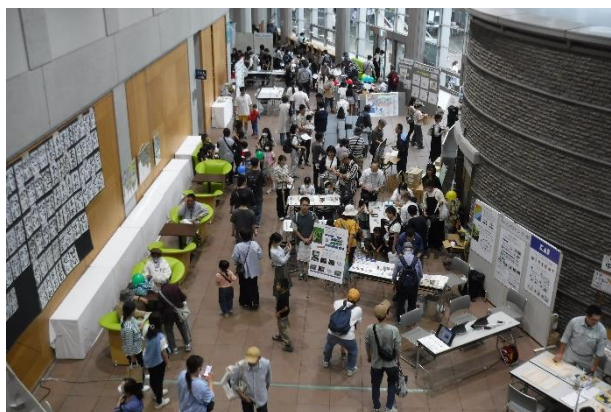
今回は「やってみよう!アップサイクル」をテーマに、使わなくなったものを再利用して新たな価値を生み出す‘アップサイクル’に関連したワークショップなど親子で楽しく体験しながら環境について考えることのできるブースが多く出展されました。

また、不用になった刃物や子供服、古本などリユース・リサイクルできるものの回収を行い、イベントに参加すると同時に環境配慮行動を実践できる機会を創出しました。

近年深刻化する気候変動・地球温暖化に対し、関心を持っていただき、脱炭素型のライフスタイルを推進するために開催した「繰り返し使えるマイカップ作り」では、多くの親子連れがマイカップ作りを楽しむとともに、一人ひとりができる脱炭素のための取り組みについても学ぶことができました。



残り染め布を利用したみつろうラップ作り



わかさ・プラザ屋内の様子

当日は、高校生や大学生のボランティアの皆さんにも来場者の対応などで活動していただき、子どもから学生、大人まで幅広い年代が参加できるイベントとなりました。環境フェアに参加することで市民の皆さんが環境について改めて考え、自分ができることを行うきっかけになったのではないかと思います。

関市の環境トピックス-3

～関市独自の生き物図鑑 制作開始！～

関市民にとって身近な自然である川への関心や環境保全の意識を高め、環境配慮行動につなげることを目的に、今年度から令和8年度までの3年間で水の中に生息する生き物の調査を実施し、関市独自の生き物図鑑を制作する取り組みが始まりました。調査には、市民の皆さんに調査員としてご参加いただくと共に、岐阜大学地域科学部の向井貴彦教授やNPO法人ふるさと自然再生研究会の皆さん、さらには生き物系 YouTuber のマーシーさんにもご協力いただいています。



長良川生き物調査の様子

今年度は長良川、吉田川、関川で調査を実施し、いずれの調査にも多くの市民の皆さんにご参加いただきました。中でも、たも網を使った魚の採捕体験では、アユやオイカワをはじめとする多種の魚を採捕することができ、実際に関市の魚と触れ合う貴重な体験になりました。加えて、向井教授の解説にも大変興味を持っていただき、関市の生態系やその変遷について理解を深めていただくことができました。他にも、長良川の調査では地元の漁師さんをお招きし、伝統漁法である「登り落ち漁」の解説や「手投（ていな）漁」の実演をしていただきました。普段見ることのない魚の様子を間近で見学していただくことができ特別な体験になったと思います。

来年度以降も市内各河川などで継続して生き物調査を実施します。図鑑を完成させることはもちろん、制作の過程から市民の皆さんと協働することで、環境保全に対する意識の啓発に繋がっていきたいと考えています。

今年度は長良川、吉田川、関川で調査を実施し、いずれの調査にも多くの市民の皆さんにご参加いただきました。中でも、たも網を使った魚の採捕体験では、アユやオイカワをはじめとする多種の魚を採捕することができ、実際に関市の魚と触れ合う貴重な体験

になりました。加えて、向井教授の解

説にも大変興味を持っていただき、関市の生態系やその変遷について理解を深めていただくことができました。他にも、長良川の調査では地元の漁師さんをお招きし、伝統漁法である「登り落ち漁」の解説や「手投（ていな）漁」の実演をしていただきました。普段見ることのない魚の様子を間近で見学していただくこと



長良川生き物調査で発見した魚